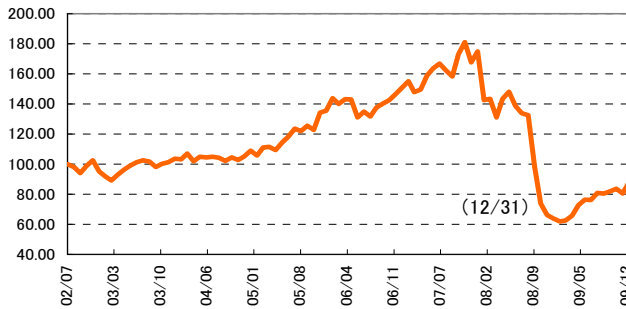


2009年12月末

グローバル株式型

主に世界各国の株式に分散投資することによって、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。
MSCI WORLDインデックス(注)を上回る投資成果を目指します。
(注) MSCI WORLDインデックスとは、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が提供する指数で、日本を含む主要各国の株式を包括的に表した指数です。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点点を「100」として数値化したものです。

ユニット・プライスの収益率

収益率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
グローバル株式型	9.05%	7.30%	15.57%	37.76%	▲41.64%	▲19.33%	▲12.12%
グローバル株式型 (※保険関係費用 控除前)	9.18%	7.70%	16.38%	39.36%	▲36.84%	▲11.32%	▲0.24%

特別勘定資産内訳

	金額(百万円)	構成比(%)
現金・その他	50	0.4
預金	11,683	99.6
投資信託		
合計	11,734	100.0

グローバル成長株ファンド

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル成長株ファンド	9.24%	7.76%	16.57%	40.11%	▲38.97%	▲4.17%
MSCI ワールドインデックス	9.19%	6.85%	16.40%	32.27%	▲38.73%	▲2.21%

*当ファンドの設定日は2001年10月2日です。

<株式組入上位10銘柄(銘柄数78)>

	銘柄	通貨	業種	比率
1	CISCO SYSTEMS INC	アメリカドル	通信	2.6%
2	ORACLE CORP	アメリカドル	ソフトウェア	2.6%
3	APPLE INC	アメリカドル	コンピューター	2.3%
4	GOOGLE INC-CL A	アメリカドル	インターネット	2.2%
5	AMGEN INC	アメリカドル	バイオテクノロジー	1.9%
6	BHP BILLITON PLC	イギリスポンド	鉱業	1.9%
7	XSTRATA PLC	イギリスポンド	鉱業	1.9%
8	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	スイスフラン	医薬品	1.9%
9	SCHLUMBERGER LTD	アメリカドル	石油・ガス サービス	1.8%
10	TEVA PHARMACEUTICAL INDUSTRIES LTD-SP ADR	アメリカドル	医薬品	1.6%

<株式組入上位5ヵ国>

1	アメリカ	49.5%
2	イギリス	10.8%
3	日本	7.9%
4	ドイツ	5.0%
5	スイス	4.7%

<資産構成比>

1	国内株式(先物含む)	7.8%
2	外国株式(先物含む)	89.9%
3	CB	0.0%
4	公社債	0.0%
5	現金その他	2.2%

<運用コメント>

米国市場は、アラブ首長国連邦(UAE)ドバイ首長国の債務返済問題が沈静化に向かうなか、雇用情勢の改善を示す経済指標などを好感し、上昇基調をたどりました。この間、ユーロ圏の信用不安が台頭したものの、相場への影響は限定的でした。下旬には、米ハイテク大手の好業績発表に加え、中古住宅販売件数の大幅な増加や新規失業保険申請件数の下振れなどを受けて一段高となり、2009年初来高値を更新しました。欧州市場は、ギリシャなどユーロ圏の過剰債務国の信用リスクが顕在化したため、軟調となる局面もありましたが、中東の信用不安が後退すると、英金融セクターへの懸念や英小売売上高の下振れなどに圧迫された英国などを除き概ね上昇基調をたどりました。月末にかけては、米国市場に追随し、英国やドイツなど主要株式市場は2009年初来高値を更新する動きとなりました。

このようななか、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、情報技術セクターの銘柄などを積み増した一方、資本財・サービスセクターの銘柄などを一部売却しました。情報技術セクターでは、コンピューターシステムメーカーを新規購入しました。同社は、2010年の企業におけるパソコンの買い替え需要サイクルや、買収による潜在的なシナジー効果からの利益が見込まれます。その他、IC(集積回路)製造メーカーを買増しました。同社はパソコンや携帯電話等の携帯インターネット機器の分野が引き続き成長を示していることから、在庫の補充や新製品により引き続き株価が後押しされると見られています。資本財・サービスセクターでは、ドイツの総合電機メーカーを、会社の2010年収益見通しが事業再編計画に対する経営者の実行力への信頼感を若干損ねるものであったことから、一部売却しました。

12月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは情報技術、一般消費財・サービス、対してアンダーウェイトとしているのは金融、ヘルスケア、公益事業です。

今後も銘柄選定ならびにセクター選定を重視し、世界のリーディング・カンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっていきます。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

当資料に関する「ご注意いただきたい事項ー大切なこと」を5/5ページに掲載していますので必ずご参照ください。

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。